

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成25年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院	申請大学名	山形大学
申請大学長名	結城 章夫		
プログラム責任者	小山 清人		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none">・本プログラム実施に当たっては、理工学研究科（工学系）全体で取組が行われている。新たな教員の採用、学生寮の確保などでは大学としての関与も積極的に行われており、体制整備が確実に行われている。・学習や研究に対して意欲的な学生の選抜が行われており、初年度の取組が順調に進んでいることが伺われる。・多様なカリキュラムが提供されており、問題点を的確に捉え、広い視野から解決策を提案・実行できる博士人材の養成が期待される。・「学生各人が目指すグローバルリーダー」に必要な授業（副専攻の履修を含む）を履修するにあたり、スタートアップ科目の講師を強化するなどの工夫により、「フレックス化」が効果的に機能している。・企業からも産学連携教授及び特任教授として積極的に参加しており、有機材料科学を中心としながらも多様な視点からの教育研究が進められている。・教員、メンター等の指導・支援体制が順調に構築・運営されている。・結城プランに沿って、山形大学の優位性を発揮する研究領域を中心に本プログラムが計画されており、学長を中心に本部役員と理工学研究科（工学系）の教員が一体となって推進する体制となっている。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none">・セミナーには企業の方は多く招かれているが、広く産学官という意味では、学生が「官」の世界をイメージできるよう、例えば産業技術総合研究所などの研究者と接する機会も重要である。・学生は、「最先端の領域で研究に携わっていると、それだけで独創的である」という錯覚に陥ることもあるため、卒業後も独創的な取組が出来るように、修了後への配慮が必要である。・海外インターンシップは3年次または4年次に実施する計画となっており、今後、多様なインターンシップ先の確保が求められる。・本プログラムで採用されている若手の教員などの活躍や、今回対応された教員以外のプログラム担当者との連携が見えてこない。理工学研究科（工学系）内の多くの専攻・教員との実質的連携の強化や、若手教員の育成などにも配慮が必要と思われる。・カリキュラムは様々な工夫が施されており、継続すべきであるが、学生の意見もフィードバックしつつ、ブラッシュアップし、プログラム外の学生にも波及させていって欲しい。・本プログラムに参加する学生は受講科目が多岐にわたるために、かなり多忙に見えるので、たまにはブレイクを作るなどのケアについても検討して欲しい。			